

経済広報センター グローバル地域研究シリーズ<第1回>

講演会「ユーラシアにおけるロシアとNIS諸国」を開催

開催日：2018年4月19日(木)

場所：経団連会館

来賓：池田 元博 日本経済新聞社 上級論説委員兼編集委員

経済広報センターは、新たなプログラムとして「グローバル地域研究シリーズ」をスタートさせた。今年度は、その動向が注目される「ユーラシア」に焦点を当て、講演会(4、5、6月)とシンポジウム(7月)の開催を予定している。4月19日、第1回会合として、日本経済新聞社の池田元博上級論説委員兼編集委員を招き、「ユーラシアにおけるロシアとNIS諸国」と題する講演会を開催した。

池田氏はまず、「キエフ公国(9世紀)がロシアの起源とされ、後にモンゴル・タタールの支配(13世紀)という歴史的経緯を経て、東方の民族や文化が融合した」と述べ、ロシアは西欧とは異なり、ヨーロッパとアジアの両方の世界に跨る地政学的な特異性を有する国であることを強調した。ソビエト連邦の崩壊(1991年)を経て新たに誕生したNIS諸国については、「民族・地域などから、ロシアを含むスラブ(3カ国)、中央アジア(5カ国)、コーカサス(3カ国)に大別され、さらにルーマニアと国境を接するモルドバを加えた計12カ国で構成される」と説明。そのうえで、「国土面積、人口、国内総生産のいずれもロシアが突出しているが、総じてNIS諸国は、世界的にも、天然ガスや原油・石炭などの鉱物資源の埋蔵量や森林などの資源が豊富な地域である」と述べた。ロシアは、エネルギー資源を中心に欧洲向けの輸出で経済成長を維持してきた。「クリミア併合に始まる欧洲との関係悪化や欧洲経済の低迷から、ロシアは貿易の対象を中国にシフトさせ、あわせて極東・東シベリア・北極圏の資源開発を強化している」と強調した。

日本はロシアに対し「8項目の協力プラン」を提唱(2016年)するなど、政府主導で経済協力の加速と関係強化に注力している。池田氏は、こうしたなかでロシアが東シベリアの天然ガスを大量供給する契約を中国と締結したことを引き合いに、



両国関係の緊密化に言及し、「ロシアと中国は蜜月状態にあり、互いに戦略的パートナーシップを構築する考えである」と発言。一方、ロシアはNIS諸国をその影響下につなぎとめるべく地域共同体「ユーラシア経済同盟」を主導するが、中国が進める広域経済構想「一带一路」がユーラシア大陸全体を包含する構想であり、中国への貿易依存度を高める中央アジアを含め、NIS諸国も対象地域となることから、「ロシアはユーラシア経済同盟と一带一路との連携を模索しつつも、同時に中国の影響力に警戒感を強めている」と指摘した。

以 上



一般財団法人 経済広報センター 国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階 電話 : 03-6741-0031

<http://www.kkc.or.jp/> ※本稿の無断転載を禁じます。